

2005年度 中間期 決算説明会

富士写真フイルム株式会社
2005年10月31日

 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの注意 業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2005年度 中間期 連結業績

業績概要

(単位:億円)

	2005年度 中間期		2004年度 中間期		増減	
	割合	金額	割合	金額	金額	%
国内	49.6%	6,462	50.9%	6,375	+87	+1.4
海外	50.4%	6,573	49.1%	6,154	+419	+6.8
売上高	100.0%	13,035	100.0%	12,529	+506	+4.0
営業利益	4.6%	600	8.1%	1,013	-413	-40.8
税引前利益	4.9%	635	8.5%	1,059	-424	-40.0
当期純利益	2.5%	331	4.2%	527	-196	-37.2
為替:米ドル		109円		110円		-1円
ユーロ		136円		133円		+3円

(注)

2004年度中間期の営業利益、税引前利益、当期純利益には、富士ゼロックス厚生年金基金の代行給付返上に伴って計上した一過性の益が含まれています。

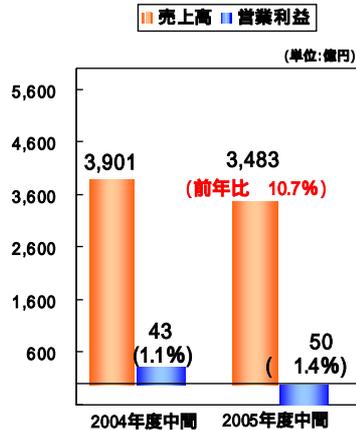
事業別セグメント情報



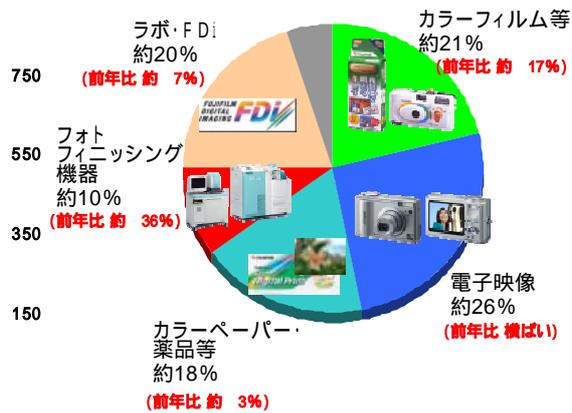
イメージングソリューション

売上高・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後



2

事業別セグメント情報



カラーフィルム等 売上構成 約21% (前年比 約 17%)

- 需要後退の影響を受け、当社販売数量はワールドワイドで前年比約17%減。
- 前年度に続き、今上期でも北米で「写ルンです」の販売が好調。

電子映像 売上構成 約26% (前年比 横ばい)

- 2005年度上期の当社デジタルカメラ販売台数は約300万台。
- 国内市場では「FinePix F10」と「Z1」が好調に推移した効果で販売が増加。
- 北米では、市場価格の軟化、エントリーモデル中心のプロダクトミックスにより、低調に推移。

カラーペーパー・薬品等 売上構成 約18% (前年比 約 3%)

- フィルム需要後退の影響を受けるも、ジカメプリント数量増加の貢献により、ペーパー全体の販売数量はワールドワイドで前年比2%増。
- 北米市場で、大手アカウントへの「フロンティア」導入効果により販売が好調に推移。

フォトフィニッシング機器 売上構成 約10% (前年比 約 36%)

- 大手取引先に対する設置が進んだことで新規需要が一段落し、出荷は低調に推移。
- 日米欧市場を中心にジカメプリント需要が高まる中、「フロンティア」新規導入需要の開拓と拡販を通じて、「お店プリント」拡大をバックアップ。

3

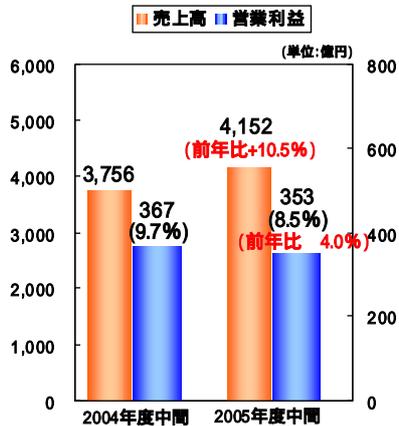
事業別セグメント情報



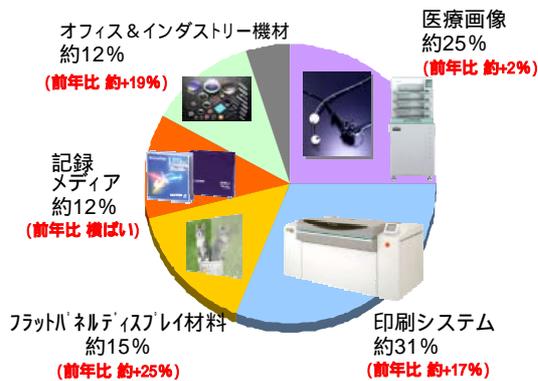
インフォメーション ソリューション

売上高・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後



事業別セグメント情報



医療画像 売上構成 約25% (前年比 約+2%)

- 機器製品ではマンモグラフィ対応の「PROFECT CS」を始めとするFCR、およびドライイメージの販売が共に堅調に推移。
- 医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」の販売が着実に増加。
- フジノン内視鏡は、機能・性能面が評価され、販売は順調に推移。
- 9月発売の「経鼻内視鏡」新製品に加え、「バルーン付電子小腸鏡」、フルデジタル電子内視鏡システム「サビエンティア」などの強力なラインアップでシェアアップを目指す。

印刷システム 売上構成 約31% (前年比 約+17%)

- 生産能力増強の効果によりCTPプレートの販売が拡大。
- 高品質のサーマルおよびフォトポリマーCTPプレート生産に対応した世界4種生産体制をさらに強化し、CTPプレート世界トップシェアを目指す。
- 原材料価格の高騰に対応し、国内で9月1日出荷分より製版・刷版材料製品の値上げを実施。
- 本年3月の「Fujifilm Sericol UK Limited」等を連結し、印刷システム事業の事業領域を拡大。

事業別セグメント情報



フラットパネルディスプレイ材料 売上構成 約15% (前年比 約+25%)

- 旺盛な需要に支えられ、フジタック、WVフィルムは順調に事業が成長。
- フジタック、WVフィルムの新たな生産設備が第2四半期より稼働し、売上増加に寄与。
- 今後も設備投資を積極的に進め、生産能力のさらなる増強を推進。

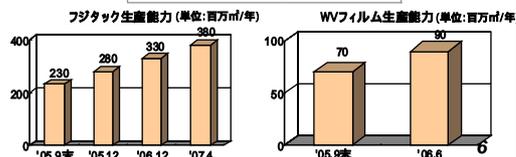
記録メディア 売上構成 約12% (前年比 横ばい)

- ミッドレンジのデータメディア分野とDVDディスク分野では、厳しい競争が続く中、市場拡大を背景に売上が増加。
- エンタープライズシステム「3592」用データテープの市場導入が着実に進行。

オフィス&インダストリー機材 売上構成 約12% (前年比 約+19%)

- カメラ付き携帯電話用レンズユニットが増販継続し、レンズビジネスの売上拡大。
- 前年度後半に買収した「FUJIFILM Electronic Materials U.S.A., Inc.」等の新規連結によって売上が拡大。

フジタック・WVフィルム生産能力増強計画



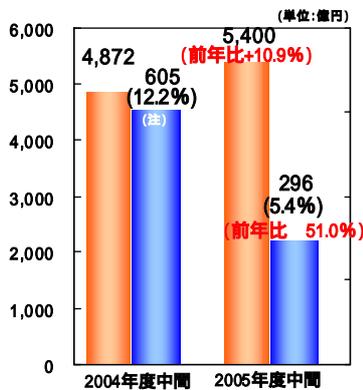
事業別セグメント情報



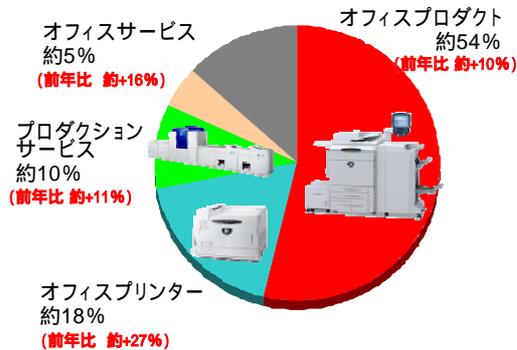
ドキュメントソリューション

売上高・営業利益

■ 売上高 ■ 営業利益



売上構成比



(注) *セグメント間取引消去後

2004年度中間期の営業利益には、富士ゼロックス厚生年金基金の代行給付返上に伴って計上した一過性の利益が含まれています。

オフィスプロダクト 売上構成 約54% (前年比 約+10%)

- カラー複合機の上位機種である「DocuCentre C6550 I/ C5540 I」の国内販売が好調。
- カラー高速機、モノクロ低速機の欧米向け輸出が大幅に増加。
- ネットワーク機能が充実した「ApeosPort」シリーズのラインアップを強化。

オフィスプリンター 売上構成 約18% (前年比 約+27%)

- 欧米向け輸出において、カラー機の供給が大幅に拡大。
- アジア・中国地域では、カラー低速機の販売が大幅に増加。

プロダクションサービス 売上構成 約10% (前年比 約+11%)

- アジア・中国地域においてコンピュータリソグラフィシステムやオンデマンドプリンティングシステムの販売が好調。
- 「Xerox iGen3 110 Digital Production Press」を発売し、オンデマンド印刷システムのラインアップを強化。

オフィスサービス 売上構成 約5% (前期比 約+16%)

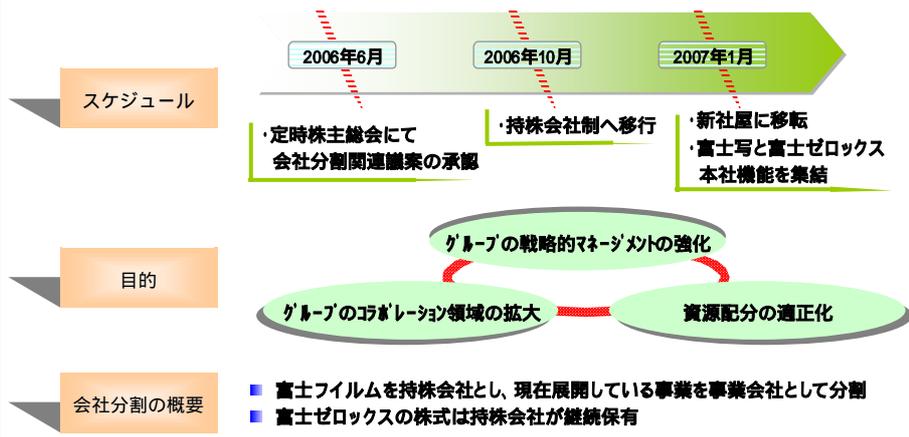
- ドキュメントアウトソーシングビジネスが伸長。
- 「(株)クロスフォース」を合併で設立し、サービス事業拡大のためのインフラを強化。

新たな成長戦略と構造改革の取り組み

- ライフサイエンス事業の基盤強化に向け、「シミック(株)」との合併で、「富士フイルム・シミック ヘルスケア(株)」を9月に設立。
- 化学薬品に関するビジネス強化を目的に、化学薬品事業部を新設。さらに同分野の開発・生産を担う三協化学(株)を完全子会社化。
- プラズマディスプレイ用材料事業への進出、(株)サンリツへの出資比率拡大を通じて、フラットパネルディスプレイ材料事業の拡大を加速。
- 国内生産体制の再編の一環として、写真感光材料のコスト競争力強化とFPD材料生産体制の充実に向け、足柄工場と小田原工場の組織を機能毎に一元化、「神奈川工場」として10月1日よりスタート。
- 本年10月1日より富士ゼロックスの国内営業体制を一新し、サービス事業を加速。
 - 直販：東京、大阪、名古屋の大都市圏に集約し、大手企業を核としたサービス営業に特化
 - 販社：地域密着経営のもと、営業・保守が一体となった機動性の高いサービス営業を展開
- 複写機生産機能の中国生産拠点への移管による加工費改善等の効率化、部品の共通化・標準化、調達コストの低減を推進。
- 本年5月、富士ゼロックス本社および国内販社で、情報プロセス改革の中核を為す新基幹システムが稼働。販売・業績の統合管理基盤の確立と在庫低減を中心とした販管費の低減を推進。

連結経営の強化

■ 会社分割方式による持株会社制への移行



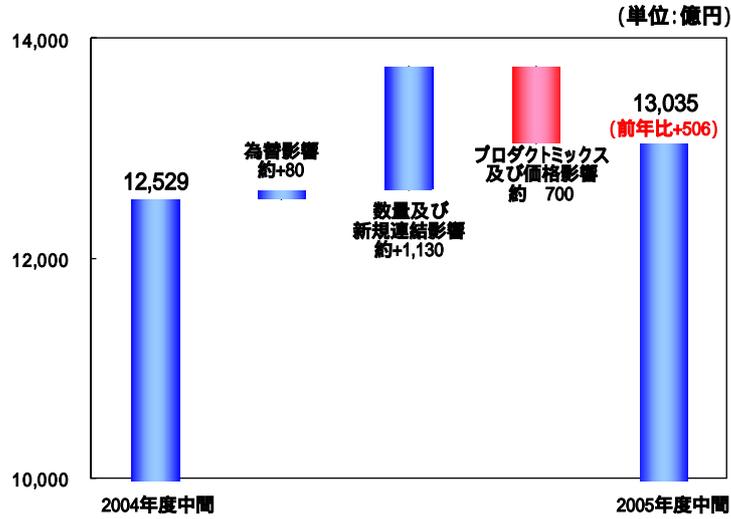
2005年度連結業績予想

連結業績予想

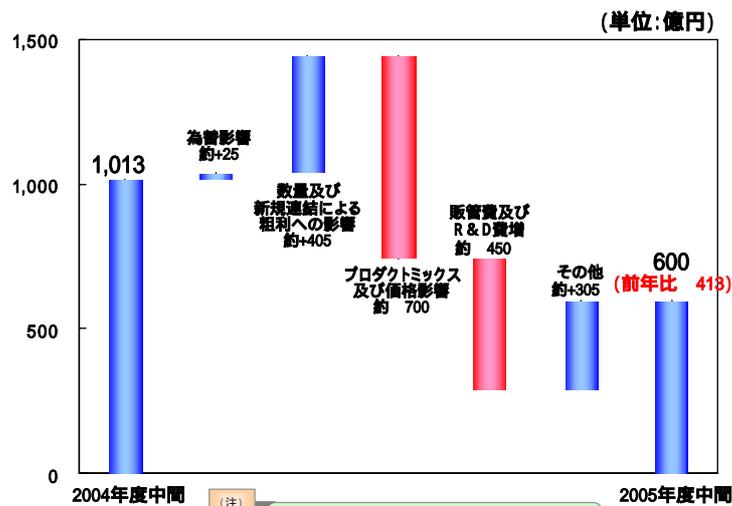
(単位: 億円)

	2005年度予想		2004年度実績		増減	
	増減率	金額	増減率	金額	増減額	%
売上高	100.0%	27,000	100.0%	25,273	+1,727	+6.8
営業利益	6.3%	1,700	6.5%	1,644	+56	+3.4
税引前利益	6.1%	1,640	6.4%	1,623	+17	+1.0
当期純利益	3.1%	850	3.3%	845	+5	+0.6
為替: 米ドル		107円		108円		-1円
ユーロ		135円		135円		-

2005年度中間期 売上高増減要因



2005年度中間期 営業利益増減要因



(注) 「販管費及びR&D費増」には、富士ゼロックス厚生年金基金の代行給付返上に伴って計上した一過性の益が含まれています。

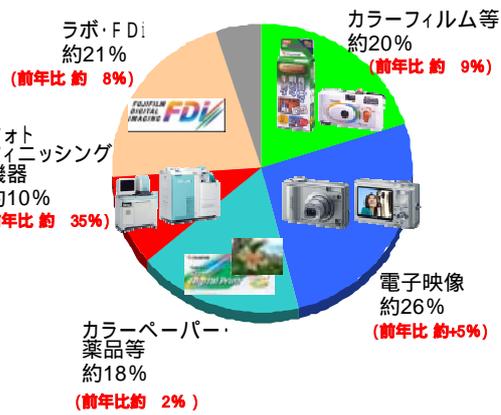
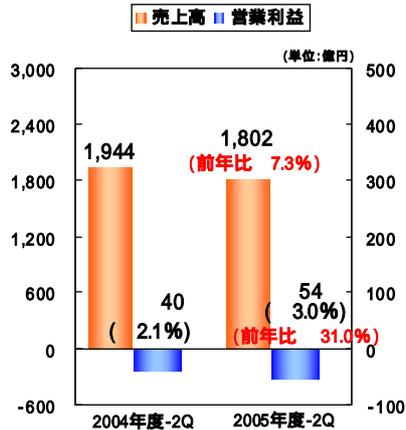
参考データ



イメージングソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

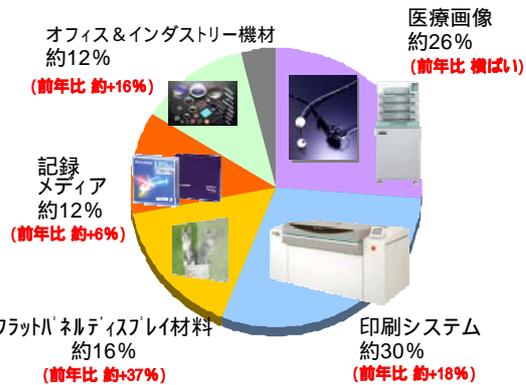
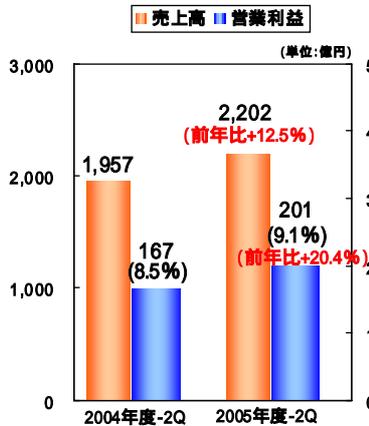
参考データ



インフォメーションソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益

売上構成比

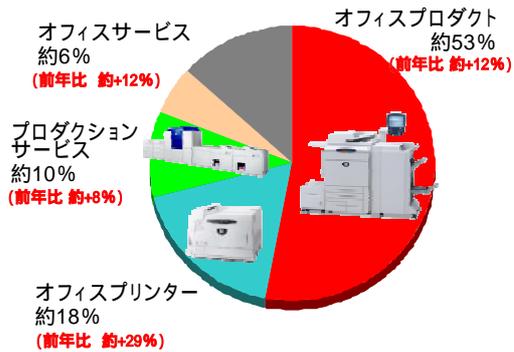
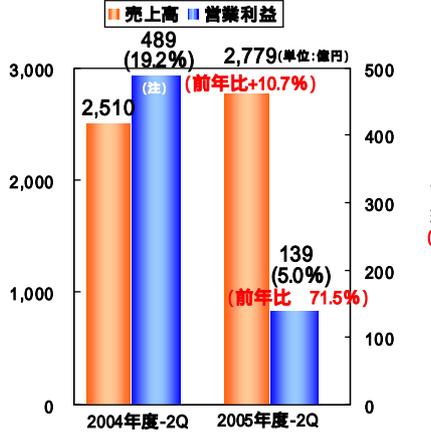


*セグメント間取引消去後

ドキュメントソリューション 第2四半期

売上高・営業利益

売上構成比



(注) *セグメント間取引消去後
2004年度第2四半期の営業利益には、富士ゼロックス厚生年金基金の代行給付返上に伴って計上した一過性の益が含まれています。

設備投資、減価償却費、研究開発費

(単位:億円)

	2005年度		2004年度	
	中間期	期末	中間期	期末
イメージング	132	370	261	420
インフォメーション	605	1,320	322	832
ドキュメント	166	410	129	322
設備投資	903	2,100	712	1,574
イメージング	344	-	303	629
インフォメーション	369	-	270	596
ドキュメント	333	-	278	598
減価償却費	1,046	-	851	1,823
有形固定資産の減価償却費	691	1,400	606	1,304
研究開発費	923	1,900	863	1,680
<売上高比>	7.1%	7.0%	6.8%	6.6%

ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

為替、人員、株主構成

為替

(単位:円)

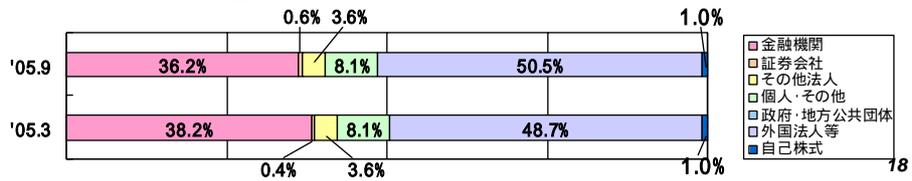
	2005年度					2004年度				
	1Q		2Q		年度 (予)	1Q		2Q		年度 (予)
	上期	下期	上期	下期		上期	下期			
米ドル	108	111	109	105	107	110	110	110	105	108
ユーロ	136	135	136	135	135	132	134	133	137	135

期末人員

(単位:名)

	2005.9.30	2005.3.31	2004.9.30
単独	9,144	8,914	9,359
連結	76,430	75,638	74,870

株式所有者分布



富士写真フイルム株式会社
 コーポレートコミュニケーション部 IR室
<http://www.fujifilm.co.jp/>